

いつも当社システムをご利用いただきありがとうございます。
今月分の請求書をご査収の程よろしくお願い申し上げます。

株式会社ユニコーン
大阪市中央区大手通 1-1-2
TEL.06-6943-4560 FAX.06-6920-5311

いつも大変お世話になりありがとうございます。

桜の花を愛でて飲んだのも束の間、あっというまにツツジが咲き始めた今日この頃です。皆さまはいかがお過ごしでいらっしゃいますか。

友人の名草さんから聞いた名草家のご先祖様「名草戸畔^{ナグサトベ}」。名草戸畔とは「名草村の女酋長」という意味といわれています。2000年以上も前、神武東征で進軍中だった神武天皇との戦いで戦死し、遺体は3つに切り離され、頭は「宇賀部神社（通称：おこべさん）」、胴体は「杉尾神社（おはらさん）」、足は「千種神社（あしがみさん）」に埋葬されたといわれています。

日本書紀には「6月23日、軍、名草^{むら}邑に至る。則ち名草戸畔という者を誅す」との一文があるのみで、神武軍に即座に殺されたことになっているのですが、名草山（和歌山市）と名草地方（海南市）で暮らす人たちの口伝では、別の物語が残っているそうです。

伝承を調査された、なかひらまい氏の著書「名草戸畔～古代紀国の女王伝説～」には、小野田寛郎氏への取材の経緯も書かれていました。

小野田さんといえばご存知の通り、戦後29年間もルバング島に潜伏し、奇跡の生還をした不屈の精神を持つ方です。小野田さんのご実家は、代々宇賀部神社を守る宮司家で、戦国時代の頃は、神社の建つ山の頂上にある小野田城の城主だったそうです。その小野田家には、「神武軍は名草戸畔に追い払われたため、仕方なく熊野をまわって奈良に移動した」「しかし名草戸畔は戦死、最終的には王権側が勝利し、名草は降伏する形となった」という物語が伝わっているそうです。公に伝わる話は常に勝者の側の言い分であり、立場の異なる人によって語られる物語は、また別の見え方があるものですね。伝承や口伝がどこまで正確かは、誰にも証明できませんが、名草戸畔の時代のDNAが小野田さんの不屈の精神に宿っているように感じて、胸が熱くなりました。

そんな名草戸畔に興味をひかれた私は、桜の花がわずかに残る暑い日に、和歌山県海南市にある3つの神社を訪れました。海南駅でレンタサイクルを借りましたが、坂道が多く電動アシスト付きで助かりました！

高台に鎮座する千種神社から遠くに高層ビルがみえました。2000年後の風景や電動自転車で楽をしてやってきた村人(私)を見てどう思っているかしら…。

征服したり征服されたり、古より世界中で繰り広げられた戦いを生き抜いた結果、いまを生きる私達のところまで命が繋がってきました。どうかこれからは戦いではなく、新たな平和な在り方で世界が動いてゆきますように。澄み渡る青空の下で、先人たちへ感謝の気持ちと平和への祈りがあふれました。

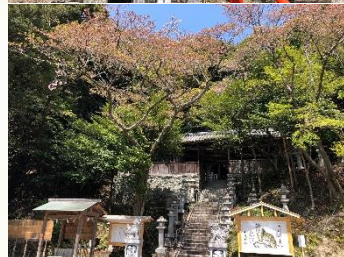
夏の様に暑かったり、寒くなったりしていますので、皆さまもどうぞお身体をたいせつに、心地よい春の毎日をお過ごしくださいませ。



宇賀部神社



杉尾神社



千種神社

この日はびっくりするほどの青空でした♪

今月も最後まで読んで頂きまして、
ありがとうございました。
来月もよろしくお願いいたします。